

## 7

ぐんようけつせい きゅうきん  
**B群溶血性レンサ球菌**  
 (无乳链球菌)



B群溶血性レンサ球菌(GBS)は、ふつうは問題にならない膣の中にある細菌(常在菌)のひとつです。

妊娠していないときは問題にはなりません、妊娠中にママの膣になかに GBS がいることがわかる(陽性)と治療が必要です。それは、赤ちゃんが膣を通過して生まれてくるので、出産のときに赤ちゃんにうつってしまうことがあるからです。GBS にうつってしまうと赤ちゃんの状態がとても悪くなってしまうことがあります。

GBS がいても妊娠中は赤ちゃんにうつりませんが、出産のときにうつる可能性があるため、陣痛がきたときや破水をしたときは、赤ちゃんを GBS から守るための準備として、ママが抗生物質の点滴をうけます。

### Q:どんな検査をするの?

A: 膣のなかの細菌の検査です。時期は、妊娠33~37週ごろの出産に近い時期にあります。

### Q:どんな治療をするの?

A: GBS が陽性といわれたら、出産についての説明があります。治療は、陣痛がはじまったときや破水をしたときに、入院してペニシリン系の抗生物質の点滴を数時間ごとにうけます。

### Q:もし赤ちゃんが感染したらどうなるの?

A: 赤ちゃんは肺炎、髄膜炎などの重症な状態になり、亡くなってしまうことがあります。生まれた赤ちゃんにすぐに抗生物質の点滴をして治療する方法もありますが、出産のときにママが抗生物質の点滴をうけるほうが効果的といわれています。

无乳链球菌(GBS)是一种阴道中的常见细菌,平时对人体无害。

没有怀孕的时候并不会构成问题,但怀孕时一旦在孕妇的阴道内发现了 GBS(阳性)就必须接受治疗。因为分娩时婴儿会经过阴道,介时就会有传染给婴儿的风险。感染上 GBS 后,婴儿的状况就有可能恶化。孕期中即使携带 GBS 也并不会传染给胎儿,但分娩时有可能传染,因此发生阵痛或破水后,为了保护胎儿不受 GBS 感染,产妇需要接受打抗生素点滴。

### Q:会接受什么样的检查?

A: 会在临近分娩、妊娠 33~37 周左右进行阴道细菌检查。

### Q:会接受什么样的治疗?

A: 如果查出 GBS 呈阳性,则会接受关于分娩的相关说明。在发生阵痛或破水后,需要住院接受青霉素系抗生素的点滴治疗,时长数小时。

### Q:如果产儿感染了会怎么样?

A: 产儿会陷入肺炎、脑膜炎等重症状态,有时会导致死亡。虽然也有在生下来之后立即给产儿注射抗生素点滴的治疗方式,但分娩时产妇接受抗生素点滴治疗更为有效。